

第2回定例研修会/CISJ

シンポジウム

「インプラントにおける咬合」

特別講演

「インプラント治療のイノベーションへ向けて」

日時：平成24年10月14日（日）

場所：東京ステーションコンファレス



岩本 麻也（東京都）

平成24年10月14日、東京ステーションコンファレスにて第2回定例研修会が開催されました。

会員発表

午前中は、笛木貴先生、富山雅史先生、宇田川宏孝先生、小嶋榮一先生、井汲憲治先生の会員発表でした。

素晴らしい内容で、勉強になりました。

シンポジウム

その後、「インプラントにおける咬合」という演題で当会を代表する咬合のスペシャリストの先生方によるシンポジウムが執り行われました。

古市嘉秀先生のインプラント治療と矯正治療の併用した症例で、術前の上唇の形態、上顎前歯の位置の診断が重要になるということが非常に勉強

になりました。そして、水谷義広先生の丸山咬合学を念頭にシロナソアナライザーを用いた咀嚼運動の模索方法によって、全身のゆがみが改善され、不定愁訴の改善にもつながった症例を紹介して頂き、咬合の重要性を再認識しました。そして、武井賢郎先生は、将来的な咬合の変化、上部構造の破折に対



第2回定例研修会

して様々な試みを紹介して頂き、その中でも特に気になったのが車のタイヤのすり減り具合を知らせるウェアリングマーカーを上部構造に採用し、咬合の変化にいち早く対応できるという点が非常に興味深かったです。

特別講演

午後からの特別講演は、東北大学大学院歯学研究科の佐々木啓一教授による「歯科インプラント治療のさらなるイノベーションへ向けて」という内容でご講演頂きました。

咬合の過去と現在の用語の認識の違いから始まり、様々な視点から研究された内容を臨床家に分かり易く説明して頂きました。特に興味深かった内容は、下顎前歯部に4本インプラント体を埋入した場合の応力分布の研究でした。平行にインプラント体を埋入した症例より多少傾斜埋入の方が1本1本のインプラント体にかかる応力の分散が出来たという内容でした。本当に素晴らしい研究の数々でためになりました。

今回の定例研修会は、インプラント補綴を考える上で咬合という避けては通れないテーマでしたが一日非常に勉強になりました。

